

あなたにとって 子どもの権利
条約って なんだろうか

あなたのすぐ前にいる その子どもにも
子どもの権利(条約)って なんだろうか
なんのこと？ と聴いてごらん

明治に入っても 笑顔だけは忘れて
来(い)ない 子どもたち 江戸から
東京となっても



アフリカのどこだろうか 来てい
る服も カッコイイね 一瞬の笑
いとは思えないほど

意思伝達の不自由さの克服から 抱っことおんぶ ハグ、握手、挨拶等の共感力まで求められた



ひとを信じる、かわいい、あたたかい、すばらしい、好きといった感情表現
そんな子どもになってほしい、そのように育てたい

「子どもの権利条約」を学ぶにあたって

- ▶ 法制上に銘記されている権利は、あなたに何がしかを与えられているということだろうけど、権利とは、そこだけに限定されてしまうのかという問題意識
- ▶ 権利とは、あなたの存在を、考え方を、方法などを原則否定されないということ
- ▶ 例えば自分が7歳になったとき、学校へ行かなくてはならないのではなく、行かされるでもなく、行けるということ、行くことを拒まれないし、わたし以外に拒否されることはないというのが、権利保障ということなの
- ▶ もっとくだけた言い方をすると、法とか規範に反しないかぎりにおいて、「いいね」と肯定されること？ 否定されるばかりなら権利の侵害？
- ▶ 18歳選挙権、どう考えたらいいの なぜ選挙権は、こんな大げさなことなの
- ▶ このまえさあ 子ども「模擬」選挙というの やらされたけど 子どもだから選挙権はないと言っていたのに どうしてやるの
- ▶ 子どもの権利が突然なくなると、どういう状態になるのか想像できない 特に変わらないのでは そうだったら 権利なんて いらないじゃん
- ▶ 子どもたち同士の自由な話し合い(熟議)で、問題決着したけど これって子どもの権利を行使しているのとは関係ないよね
- ▶ 「子どもの権利条約」そんなに知りたいなら おとなより子どもから先に聞いたらいいんじゃないね

課題と問題の意識化 問いを問える子どもたち

- ▶ 皆さんが学んだ 学校教育での「学び」の権利とは どんなだったろうか
- ▶ 教科の試験では必ず正解を求められたが、社会に出ると様々な正解もあるし、なにが正解なのか、正解そのものがない場合もたくさんある
- ▶ 投げられ求められた問題の提起をどのように受け止め、その解決の方法と回答を自分たちの力で独自に職場でも見い出し 合意していくことの大切さと難しさ、そのことを身に染みているのかいないのか
- ▶ 学校以外の場では、誰にどのようなことを学んだろうか
なぜ学校以外だと楽しめたのか その理由と原因を探ると結末は
- ▶ ワークスコープでは、どんなことを学び、学んだのか あるいは学べないのか 今どんなことを学びたくて、学ぼうとしているか こうした忘れてしまいそうな 課題到達の意識こそが 毎日を生きていくためには 必要ではないのか

主体的・対話(協同)的で 深い(探求的)学びとは

- ▶ 平成26年に文科大臣は中教審に諮問 平成28年に答申
- ▶ 対話の相手は子どもだけでなく、教職員、地域の人、先哲などと幅広い
- ▶ 自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことの難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり 深めたりできるようにすること
- ▶ つまり「深い学び」とは

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして 解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

皆さん「深い学び」が実現できていますか

(最近わたしが読んだ本の余談から)

『**ホモ・ルーデンス**』(ヨハン・ホイジンガ) 『**南方熊楠と宮沢賢治**』(鎌田東二) 『**新しいアナキズムの系譜学**』(高祖岩三郎)

これらの著には、自然科学、社会人文科学などという枠組や既成の発想にはとらわれない、あらゆる視点から縦横無尽に思考しながら、おもしろく能動的に創造していく学びが、ここにはある

寺子屋風の学びだと くつろぎのある
楽しそうな学びの あそびとなる





近代公教育の始まった明治時代の学校教育は
型苦しい窮屈な息苦しい
形から入った
詰め込み主義の教育

数年で様変わりとなった

150年後の今も
変わることなき
風景かも



デンマークの初等
教育の学びの風景
ここでは「授業」
というものはない



「教師」は子どもたち
から発問があると、控
えめに登場してくる
ファシリテーター

子どもの権利(Child's right)とは

こどもの権利って、どういうこと？なんのこと？

大田堯先生は、「権利」とは、Light(光輝く)のRight(正義、権利)だと愉快なことにウィットで語った。英語圏の人々にとってRightとは、漂う空気感のようなもので、車をうまくバックさせるときに「オーライト」「オーライト」(All Right)などと、日本人だって発するだろう。あれ(Right)あれ(Right) あれなんだよ。

日本人は、「オーライト」をうまく行っているぞ、そのままバックでいいよ、くらいしか思わないだろうけど、日常会話を英語で「Right Right」と言っている連中は、子どものときから「正義とか権利」をも内包されている言語だと自然に身についているんだな〜と。

つまりRightは、生得的な権利なのだと無意識のうち知っている。それくらい頻繁に使われる日常の語彙なんだ。だから日本語で「権利」と訳してしまったことは、曲解され、理解しがたいものとなってしまうた。



大田先生は100歳まで生きた
研究者としてはワークーズの
最大の理解者だったといえる



生きるとは、
学ぶとは ——

93歳、夢とあこがれを語る

子ども ↔ 権利の因果関係を考えてみると

- ▶ 子どもの権利条約と法律の事柄については、別のところで詳しく知っておこう
Convention on the Rights of the Child「児童の権利に関する条約」
- ▶ そもそも子どもとは？ なぜ「子供」それ自体が問題にされるようになったのか
- ▶ 「権利」って、なんのことか？ なぜ(子どもの)「権利」が問題となったのか
- ▶ 子どもにも「権利」が必要だという意識は、どこから生じてきたのだろう
- ▶ 言語、慣習など文化様式、男女、皮膚の色等の身体的な特徴や違いによって差別されないということ それでも裁判で争わないと決着がつけられないというのは、時間も費用も労力も相当に費やされることなだが・・・
- ▶ 児童の保護とか養育という生存に関与するところは、親権との利害関係もあったし
- ▶ 学校の誕生と義務教育の制度、児童労働という過酷な「強制」労働の実態も要因に

子どもの権利とは、「子育ち」「子育て」「子育つ」の環境が醸成され、子どもの成長と発達を保障する 促すということか

私を育ててくれる、くれた、係わってくれる、くれた、多数の他者たちとの継続的な関係と、そうしたことで起きてくる様々な「摩擦と貢献」の関係について、自らそれを価値あること(いいね)と認知されていることが、今はとても大切になっている

それは多数の他者たちとの交わりだけではなく、人間以上に多数ある「モノの存在」(自然)との出あいにもいえる しかし いまは人工的かつ高度な「モノ」ばかりと交わり、私が支配されつつある

出あいとは人と「モノ」だけに限らない、空想、妄想、想像と観念、精神の文化といった領域にも出あいが創出されていかないと 子どもにも考える力は養えない

これらの最低必要の要件を保障するのが行政であって、家庭、地域社会でもあったのだが

教育と保育を 特定の親と保育士と教師などに限定されてしまう現況は危険ですらある 様々な体験と過程を保障して、子ども自身が判断し「選ぶ」権利が、子どもにはあるのだと言っていた(大田堯)



どんど焼き
道祖神



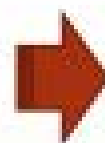
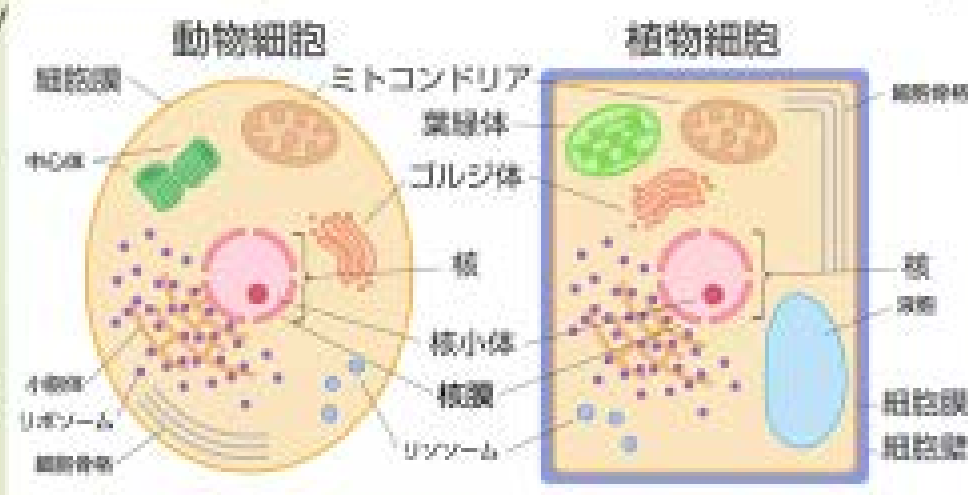
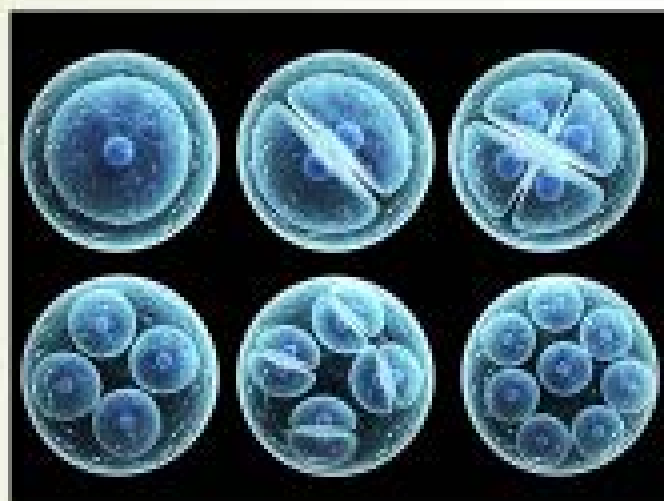
子どもとは誰のことか

子どもとは を聴きたい①

- ▶ 受精、誕生、自律して労働が可能になるまでは 子どもだという説
- ▶ つまり 働くこと 働けるようになって 一人前の「おとな」ということか
- ▶ 社会の慣習も大枠として、そのようにも捉えられてきた
- ▶ ここまで無事に立派に成長して育ってくれたら、もはや子どもの「権利」なるものは基本保障していた ということになるのだろうか



人体細胞60兆個、身体の内蔵内連結と統合動態(均衡状態)人体ミクロと宇宙空間マクロとのバランス状態



発端は地質学から新登場した「人新世」

Anthropocene

- ▶ 人類学 anthropology では、いまでもそれが熱い愁眉の激論となっている
- ▶ 一万年余の現「完新世」は終わって「人新世」期(新生代・第4紀・完新世)に入ったという新説
- ▶ それは資本主義の権力者たちが「加速主義」によって、惑星としての地球をも破壊し人類史の終焉を予告する終末思想でもある。現世人類が意図しないうちに地球は生まれ、地球は現人類が墓穴を掘って自滅しようとも、地球そのものはまた別種の生命によって生き続けるだろう、といった人間様からすると辛い冷徹な説明。地球環境を破壊しつづけてきた人間中心主義が、地球という惑星からはレッドカードを突き付けられ、いよいよ70億の人間様は排除されるという警鐘になっている ポストヒューマン
- ▶ それは地球温高化を契機に提起されていた概念だったが、もはやエコロジーという枠組みの話と運動の次元をこえたところにきている。
- ▶ こうした人間の生命と発達としての実在をめぐる思想の哲学的課題を、子どもの権利条約とは別次元にするのではなく、同質で語られなくてはならないだろう



環境問題が叫ばれる昨今、どういう哲学が可能なのか？ 環境学と哲学、文学など人文学全体を横断しながら、壊れつつある地球上の「人間の条件」を刷新する！

人新世の哲学 篠原雅武

地に突き刺さった幾億千万本のガラス管。

ひょっとすると
ああ、これはもう日本じゃないぞ ——小野十三朗（詩人）

人文書院



人類が変えた地球

Adventures in the Anthropocene
A Journey to the Heart of the Planet We Made

新時代アントロポセンに生きる

ガイア・ヴィンス 著
小坂 恵理 訳



サピエンス P R I M A T E C H A N G E How the world we made is remaking us 異 新たな時代 「人新世」の衝撃 変

私たちの文明と身体に
史上空前の「激変」が
起きている！

BBC番組化決定で大反響！

各紙誌絶賛の最新ベストセラー人類史

フィナンシャル・タイムズ紙
「2018年
ベストブック」
選出！

英ケンブリッジ大学准教授
ヴァイバー・クリガン・リード
Viktor Cregan-Reid
水谷 淳・嵯原多恵子 訳



子どもとは誰のこと いつから 子どもではなくなるの？ 子どものままじゃ いけないの？ 大人には 絶対ならないぞという 権利はないの②

- ▶ C 自力では生きられない子ども 10歳前後くらいまで
- ▶ CA 自力で生きられそうで、大人に近くなってきた子どものような大人のこと
- ▶ おとなとこどもの区分として、自立して自前で働き喰って子どもをつくり育てることができた そこでは大人とされた
- ▶ 選挙権の年齢で、子どもと大人は分けられるという考え方
- ▶ 子どもは動物に近い存在だから、親が子に餌を運び食べさせてもらっている間は子どもだと
- ▶ 年齢上の子どもと大人の区分は形式的な線引きで、あくまで社会的な目安にすぎないという見方

大人とは違う、子どもという現象的な特異点を見ると

- ▶ 「子どもはひとりひとり違う、違っていいんだ 顔だってひとりひとり違うでしょ」と(大田堯)
- ▶ **子どもは** 遊びが大好き 遊びの天才 遊戯三昧 勉強させられる 身体的に大人よりハンディーがある 食べる量が少ない メリハリがない 能力に劣る たくさんの仕事はこなせない 長続きもしない むらがある 集中できない ときどき突拍子もないことをいう なだめるのが大変 すぐ泣く じっとしてはいられない なにを考えているのかわからない 純真無垢 等々・・・他にも 子どもと大人とは対等平等か(こうした問い方が探究的な問い)
- ▶ いつも大人たちと比べられ、あまり良くも言われなかった未成熟な存在が子どもだっただからなんとか早く一人前に働けるようにと、学ばせようとも 親はした？
- ▶ 子どもの躰の一環ということで、まるで家畜でもあるかのように鞭で打たれたりもしたこれを体罰、権利の侵害だと言うようになったのは、後々の世紀になってからのこと

「児童の世紀」(1900年 エレン・ケイ)①

Ellen Karolina Sofia Key, 1849-1926

- ▶ なぜ北欧が、ゆたかな国だと言われるようになったのか その問題意識と課題意識も大事
- ▶ なぜかくも、女性の進出がこれほどあって 女性の議員、党首、首相が当たり前になっているのか
- ▶ 子どもの学校教育場面を見ると、干渉しない、教えないという授業風景が徹底
- ▶ 『児童の世紀』(The century of the child)本は直訳タイトルだが、どのような意味をイメージされたか 彼女の生い立ちも知ろう
- ▶ 戦争することがまだ犯罪ではなかった時代、エレンケイは当時の日本にどのような影響を与えたと思うか
- ▶ エレンケイの著作を紹介してきた日本人たちは、どのような人々だった

小野寺信・百合子 原田実など多彩な訳者と論陣 大村仁太郎の訳は 世界中に知れ渡ることになった1902年のドイツ語版(25000冊)を基にしている



ヤヌス コルチャック



エレン・ケイ

「児童の世紀」(1900年 エレン・ケイ)②

- ▶ 両大戦間に成立したGeneva Declaration of the Rights of the Child 「児童の権利に関するジュネーブ宣言」(1924年の国連採択)にエレンケイの考えと実践は決定的に反映している
- ▶ 「児童権利宣言」(1959年)から「国際児童年」(1979年)「子どもの権利条約」(1989年)ポーランド小児科医のコルチャック先生がリスペクトで先導した
- ▶ コルチャックはエレンケイの思想と哲学が濃厚な「ジュネーブ宣言」を当時熟知しており、彼の孤児院においては、さらに子どもの権利を発展させることに貢献したが、ナチスの捕虜収容所において子どもたちとともに死す
- ▶ ジュネーブ宣言は戦後の「世界人権宣言」(1948年)に反映され、世界人権宣言は「子どもの権利条約」へとつながる ポーランドが最初に採択してリードしたが、そのポーランドはコルチャック先生の功績をもってして条約締結を先導していた だからコルチャックも一躍有名になった
- ▶ 「子どもの権利条約」の1～10条は、ジュネーブ宣言を具体化したもの

「児童の世紀」(1900年 エレン・ケイ)③

- ▶ 「20世紀は児童の世界」(1906年大村仁太郎の訳書)「子の親を選ぶ権利」子どもの生存権から訳した 貧困格差、教育・保育の劣悪な社会環境の中でも発展進化すると考えた 児童優先主義 人類進歩の社会進化論 社会ダーウィニズムとナチズムにも利用された
- ▶ エレンケイは なにも教育しない教育 自然が最大の教師であり教育者なのだとルソーからの継承 子どもは おとなになると大切なものを失う 子どもに自由と平和を与えられないとしたら、それは教育の最大の犯罪だとした。遊べる子どもだけが子どもを教えられる 自然主義の教育と詰め込み主義の教育を批判した
- ▶ 国家の教育より学校教育より家庭教育、女性解放、職業婦人、母性、男女平等、恋愛と結婚の自由 恋愛なき結婚など不道德きわまりなし 日本では母性保護をめぐって平塚らいてうと山田わかとの論争、伊藤野枝、奥むめお など多くの女性たちに支持されていく 日本の大正自由教育にも影響 エレンケイは、当時の家父長的な日本においては 過激な思想家とされ排除されていく
- ▶ 女性の家事労働の負担と育児の疲れ、そして対等を迫られる女性の就労
- ▶ 子どものことばかり見ている、子どもは見えてこない

子どもの権利条約の署名採択までの変容

- ▶ 宣言を草稿したイギリスの社会運動家のエグランティン・ジェップ アーツ & クラフト社会慈善家 国際セーブ・ザ・チルドレン(1920年ジュネーブで創設)のイギリス・セーブ・ザ・チルドレンとスウェーデンのこれに対応する組織「ラッダ・バルネン」に関わる 1928年没
- ▶ 「児童の権利に関するジュネーブ宣言」(1924年の国連採択)5条
- ▶ 「世界人権宣言」(1948年)
- ▶ 「児童憲章」(1951年)5/5内閣総理大臣招集に児童憲章制定会議2年 12条
- ▶ 「**児童の権利**に関する**宣言**」(1959年)10条に拡張
- ▶ 「国際児童年」(1979年) 76年に国連採択された国際年 ゴダイゴ
- ▶ 「児童の権利条約」(1989年)署名採択前文と54条
- ▶ 社会権 文化権 市民的政治的な権利など

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。

一 すべての児童は、心身共に健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。

二 すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもつて育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。

三 すべての児童は、適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害からまもられる。

四 すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。

五 すべての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつけかわれる。

六 すべての児童は、就学のみちを確保され、また、十分に整った教育の施設を用意される。

七 すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。

八 すべての児童は、その労働において、心身の発育が阻害されず、教育を受ける機会が失われず、また、児童としての生活がさまたげられないように、十分に保護される。

九 すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。

十 すべての児童は、虐待・酷使・放任その他不当な取扱からまもられる。

あやまちをおかした児童は、適切に保護指導される。

十一 すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。

十二 すべての児童は、愛とまことによつて結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。

ビューティフル・ネーム

①今日も子どもたちは 小さな手をひろげて
光と そよ風と 友達を呼んでいる

だれかがどこかで答えてる
その子の名前を叫ぶ
名前 それは燃える生命
ひとつの地球にひとりずつひとつ
Every child has a beautiful name
A beautiful name, a beautiful name
呼びかけよう名前を すばらしい名前を

②今日も子どもたちの歌声が世界を
大きくつつむだろう 大きくまわるだろう
ひとりの子どものかなしみも
仲間になまえに溶ける
名前 それは燃える生命
ひとつのちきゅうにひとりずつひとつ

子どもの権利条約は 前文と54条からなる

▶ 日本ユニセフと名取弘文の解釈によれば

大きく分類してみると

生きる権利 育つ権利 守られる権利 参加する権利

- 生きる権利 - すべての子どもの命が守られる権利
- 育つ権利 - 教育や医療、生活への支援などを受ける権利
- 守られる権利 - 暴力や搾取、有害な労働などから守られる権利
- 参加する権利 - 意見を表現しそれが尊重される権利、
自由に団体を作る権利

第1条：児童の定義。

児童とは、18歳未満のすべての者をいう。ただし当該児童で、その者に適用される法律により早く成年に達したものを除く。

第2条：児童およびその父母・保護者・家族の構成員に対する差別の禁止。

人種・皮膚の色・言語、性別、宗教・思想信条、社会的身分や財産、心身障害などによる差別的取り扱いを禁ずる。

第3条：児童の最善の利益の保護。

締約国は児童の最善の利益のために行動しなければならないと定める。

第4条～第5条：締約国の義務。

第6条：子どもの生きる権利

すべての児童は生命に対する固有の権利を有し、締約国は児童の生存および発達を可能な最大限において確保する。

第7条：氏名および国籍を得る権利、父母を知り父母から養育される権利。

第8条：児童が法律で認められた国籍、氏名、家族関係を含むその身元関係事項を不法に奪われない権利。

第9条：児童が父母の意思に反して父母から分離されない権利。

たとえ分離されていても実の両親 (parents) と関係を保つことを定める。

ただし児童虐待や放置、両親の別居の場合など、児童の最善の利益のため、権限のある当局が司法の審査と法手続に従って必要と決定する場合はこの限りでない。

第10条：第9条の児童の権利を守るための出入国に関する条項。

第11条：児童の不法な国外への移送および国外から帰還できない事態の防止。

第12条：児童の意見表明権。

児童は自らに影響を及ぼすすべての事項について、自由に自己の意見（原文:views、考察・考え）を表明する権利を有する。自らに影響を及ぼす司法上・行政上の手続において、国内法の手続規則にのっとり聴取される機会を与えられる。

第13条：児童の表現の自由。

児童は表現の自由と、あらゆる情報や思想を求め、受け、伝える自由を持つ。

次の目的に限り法律による制限を課することができる。他者の権利や信用の尊重、国の安全、公の秩序、公衆の健康、道徳の保護。

第14条：児童の思想・良心の自由、信教の自由。

第13条と同様の制限、父母・保護者が児童の発達に応じた指示を与える権利と義務の尊重が付される。

締約国は、思想、良心及び宗教の自由についての児童の権利を尊重する。

第15条：児童の結社の自由と平和的な集会の自由。

第16条：児童の通信の秘密とプライバシー権の保護、名誉と信用に対する攻撃の禁止。

第17条：児童とマスメディアに関する責務。

児童に有益な書籍やマスメディアの普及、少数言語を用いる児童への配慮、有害な情報からの児童の保護。

第18条：両親の責任と育児への支援。

父母（原文:both parents）の責任と、締約国の親への支援（ことに働く父母への支援）を定める。

第19条：児童虐待、ネグレクト、児童の搾取、児童性的虐待の防止と保護義務。

第20条：家庭環境を奪われた児童、家庭環境が児童の最善の利益に反する児童への特別な保護と援助の義務。

第21条：養子縁組における児童の最善の利益の確保。

第22条：難民児童に対する保護と人道的援助。

第23条：精神的・身体的障害を有する児童の尊厳、自立促進と社会参加、医療・教育などの確保。

第24条：児童の病気治療と健康増進の確保。そのための環境汚染の防止と公衆衛生の向上。

児童の健康を害するような伝統的な慣行の廃止を含む。

第25条：身体または精神の保護・治療のため収容された児童の処遇状況に関する定期的な審査。

第26条：児童が社会保障を受ける権利と、締約国が国内法に従いその措置をとる義務。

第27条：身体的、精神的、道徳的及び社会的な発達のための相当な生活水準についての児童の権利。

第28条：児童が教育を受ける権利とその機会の平等。

中途退学率の減少、非識字の廃絶、学校の規律を本条約と児童の人間の尊厳に適合させること。

第29条：教育内容の向上。児童の発達、人権の尊重、多様性の尊重と自由な社会における責任。

第30条：少数民族・原住民の児童の言語・文化・宗教の尊重。

第31条：児童の休息と余暇の権利、遊びとレクリエーション、文化的・芸術的活動の尊重。

第32条：児童の経済的搾取、危険な労働への従事の禁止。児童労働法と雇用最低年齢の制定。

第33条：薬物の不正使用からの児童の保護。

第34条：児童買春などあらゆる性的搾取、性的虐待からの児童の保護。
わいせつ物やわいせつな演技に児童を搾取的に使用することを含む。

第35条：児童の誘拐、人身売買を防止するための国内および国際的な措置。

第36条：児童に対する残虐な刑罰の禁止。児童の自由を不法に奪うことの禁止。
18歳未満の者が行った犯罪について、死刑または釈放の可能性がない終身刑は科さないこと。

第38条：戦争や武力紛争からの児童の保護。15歳未満の者を軍隊に採用することを控える。

第39条：虐待、放置、搾取、拷問、武力紛争などの被害者となった児童の、心身の健康と尊厳の回復。

第40条：刑事訴追された児童の権利保護。推定無罪の原則、自白強要の禁止など。

子どもは、いつから子どもという存在者となって、大人とは違う存在と認知されはじめたのか

- ▶ 子ども(期)の発見 子ども期の存在 子どもは「小さい大人」だった？
- ▶ なぜ子どもが大人と分けられ、「子どもの発見」がなされたのか
- ▶ 産業革命と近代(教育)の目覚め 大人の人権(普選)保障とともに
- ▶ 生命の存在をめぐる問題(社会権)へ発展 なぜ人間だけ子殺しをするのか
- ▶ 子宝と子殺し 水子供養(宗教道徳意識)と間引き 乳幼児の死亡率の高さ
- ▶ 「七歳までは神のうち」論争の結末はどうなったか？
- ▶ 児童労働は禁止されて以降に児童保護が登場するが、それおかしくない？
- ▶ 親の子育ては(母親の)本能か それとも権利義務関係の責務によるものか
- ▶ 子どもは父母から生まれるが、親による子の独占私有を試みても育てられない、育ててもいけないという社会的な規範と規律があった どうか



ヤマノミ族の「子ども」？



時代別 人の平均寿命

時代	平均寿命	時代	平均寿命
縄文時代	31歳	明治24～31	43.55
弥生時代	30	大正15～昭和5	45.65
古墳時代	31	昭和10～11	48.25
室町時代	33	昭和22	52.05
江戸時代	45	昭和25～27	61.3
		平成22	83

※ 江戸時代までは15歳を超えて生き延びたものの平均値。明治以降は幼児も含めた全員の平均。

※ 出典：「長生き」が地球を滅ぼす／著・本川達雄／文芸社文庫より

子どもだって ①私有・共有・公有、②私益・公益・公益、③私立・共立・公立、④白(私)助、共助、公助の関係から 免れ得ない

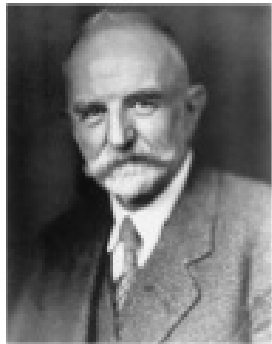
- ▶ 子どもは親の子どもであっても、親たちの所有物ではないという権利意識の変化はいつ頃から起きたと思うか
- ▶ 子どもは父権所有 共同体所有だったり 私有と共有の関係にあったということ 私事性の集合が「公共」性を産むというのは 単純すぎる論理か
- ▶ 子どもは大事な所有物(子宝の売買)ではあったも 子どもそれ自体には私権が大きく制限されていた 子どもの進路も結婚も誕生も死も自由ではなかった
- ▶ そもそも行動範囲も行き先も制限され指示もされてきた
- ▶ 子どもは親と共同体の私益(私物)と共益する関係にあって、子どもに自由と私益がなかったのは、権利が侵害とされてきたからだといえるのかどうか
- ▶ 子どもの私P・共C・公Pの三つの関係をおさえておこう 労働者協同組合はどれに位置するのか 他とはどういう関係にあるのか

近代的自我にめざめることで、自覚的に自分(私)という存在を意識し、他者(あなた)と出会う

- ▶ 人間には自我(個人としての私)意識はあまりなかったのか(例えば我思うゆえに我あり)
- ▶ 明治時代くらいまでの日本人の「同等」観には、「私」という意識があると自己中心的な私利私欲、私有財産という文字が当てられたように、私とか自我は、あまり歓迎されなかった それは正義に反するか「私=アイ」について自覚することも強調もされない
- ▶ 「これまでどおりそうしておこう」という、社会慣習の判断に依って自己判断自己主張する余地など少なかったのか
- ▶ 分をわきまえた「自分」ならまだ良いが、自己だと利己主義で自己主張、自己責任、自己放棄などわがまま放題のイメージとして、自我という用語には悪い面が残された
- ▶ それでも欧米の「自分」らは、自立、自律、自力といった側面が社会的には強調され、自らは、自由自在を意味して評価もされた 悪徳の自由は否定されたが
- ▶ 二葉亭から漱石らの文豪たちの作品をみると 近世の作品にも自我意識は表れてきた
- ▶ 大正期の中産階級では、その盛りとなりつつあった 自由教育 デモクラシー

社会的な自我形成①

G.H.ミード(George Herbert Mead)



1863-1931

自我は他者との相互行為を通じて、他者からの自分に対する**役割期待 (role expectation)** を身につけることによって発達する



お兄ちゃんだから貸してあげなさい



自我の成熟とは
一般的他者からの期待
に応える規範やものの
見方を内面化すること

第一段階

**役割取得
(role-taking)**

お母さんに怒られる
から貸してあげよう

意味のある他者からの
期待に応えた役割取得

第二段階

お兄ちゃんだからちょっと
我慢しなくちゃいけない

一般的他者からの
期待に応えた役割取得

社会学でいうところの自我の形成

子どもには「権利」などなかったのだから 普通選挙権のような展開とは異なるのか

日本でも1900年前後から子どもを守る、守られることが自覚的になりつつあった。

では、なぜ「私」が「私権」にまで大切な事柄となったのか

- ▶ それには「私」という存在が、成立し得る環境や条件を考える
- ▶ 私が私として振舞えるのも、つまり他者からその存在を認めてもらえることができたから(村八分)。誕生も死も認めてくれるのは、本人自身ではなく他者が認知認定するのだ。私は生まれた私は死んだというのはウソ
- ▶ それくらい自分(個)にとって他人他物は大事だということ。自分は自分で生めないし、自分を自分だけでは育てられない、どれほど努力したとしても。そうすると自殺する権利は、尊厳死として認められるのかどうか
- ▶ 子どもの権利を承諾するも保障するも、他者であり公共であり 他者貢献したいという遺伝子レベルの話なのか
- ▶ 権利は誕生すると誰にでも生来あるものとして認知させているが、それがどこまで保障されているのかどうかになると、別次元の話となる

子どもの権利と

SDGs(持続可能な開発目標)①

- ▶ 子どもの権利は、SDGsと関係があるのかしら
- ▶ 子どもの権利を守る、守ろうと声を発し、その闘いの運動に参加することとしたが、それだけでは足りないのでは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



子どもの権利と

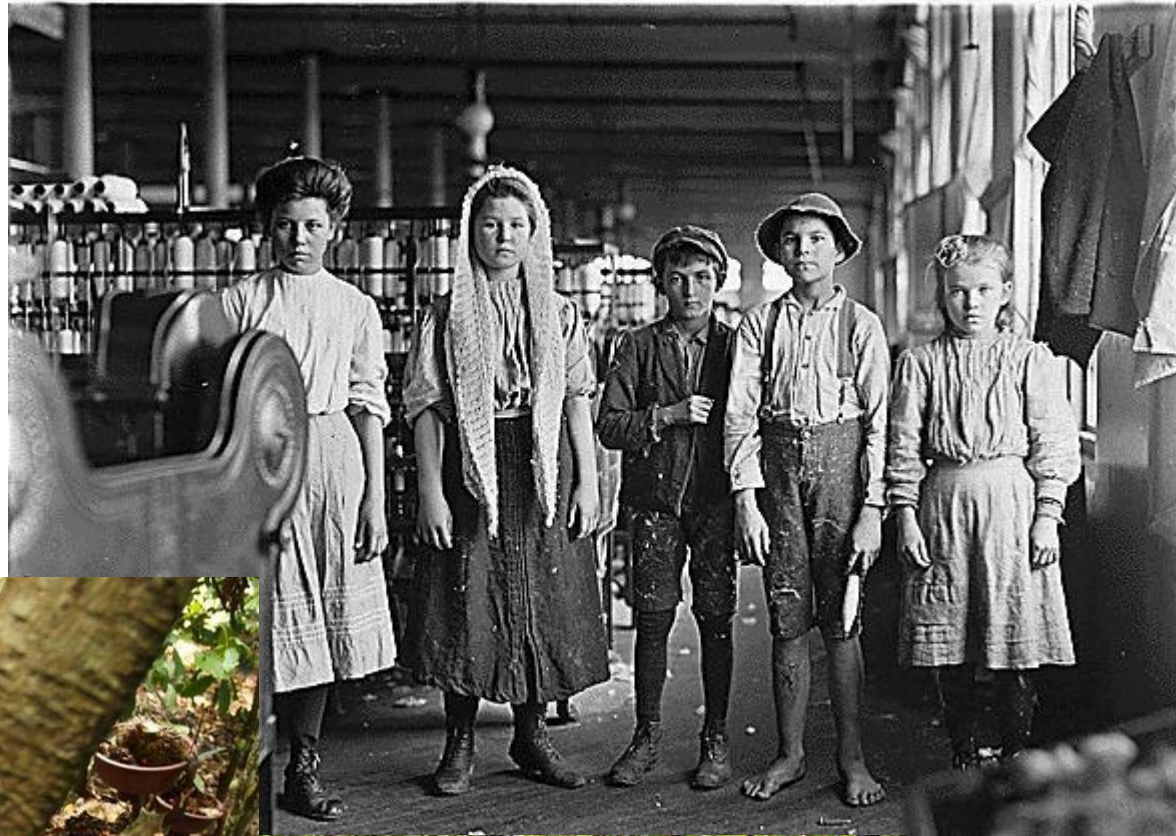
SDGs(持続可能な開発目標)②

- ▶ その過程においては、その当事者の子どもたちと伴走して、共に学び、自立と自律を遂げて「育ち」、支援者の側だって育てられ、ともに成長し「育つ」ことがないと、絶対に権利獲得の実現はないということか。
- ▶ 法制度上で権利を獲得していく協同の過程が大切で、たとえ権利が付与されようとも、獲得しようとも、その勝利は「空疎」「空洞」の「証文」と化していく可能性があるということ
- ▶ 子ども固有の事柄の権利だけではなく、地球全体も見えていないと、子どもの権利獲得は薄ぺらい たとえばSDGsに自らの正義の価値を投射して見る必要があるし、そこに記されていることに納得もし、実践もできないことには、子どもの権利実現の最前戦にある現場などとは言えないし、ダッチロールしているようでおぼつかない、でもそこからはじまる

働く子どもが「権利」の獲得に貢献した？

- ▶ 高度経済成長期のころから「遊びは仕事 仕事は遊び」でもなくなった
- ▶ 異年齢子ども集団の解体と遊び文化の衰退（「三間」子ども期の終焉）
- ▶ 子どもは類的に群れる集団でもなくなった 子ども社会なき冒険もなき時代
- ▶ 子どもの自然性と社会性の獲得は、子どもが未来を明るく照らす鏡だったから
- ▶ とともに協同して「仕事」のできる子どもたちは、子どもの権利を獲得させ認知させたという事実 かつての児童労働は家計を支え生きていくための 生きるための仕事
- ▶ 動植物の生命を殺してまで、人間を生かしておくに値する存在か？ その現実をどう考える
- ▶ 地域の人たちとともに生きて居る ということを実感できて嬉しいということ
- ▶ 誰からもなにモノからも見守られ 育てられ 期待もされてきた という子どもたち
- ▶ 宮沢賢治の労働論「もうはたらくな」の意味と、かれのあまり読まれてもいない『車』『バキチの仕事』という作品は、遊びと仕事を考える上では 大変おもしろい

産業革命の時代に
紡績工場で働く子どもたち



カカオ生産に従事する南米の
子どもたち

人間のみならず、自然とも向きあい、分かちあう・支えあう・学びあうの
関係性の形成 それは子どもの権利条約の実現獲得と関係ありや

- ▶ 皆で生きるために確保した食料は 皆で公平に分配されていた
どうして能力に応じて 分配したり 独占もしないのか
- ▶ 必要に応じて食料を獲得していた 乱獲しなかったのはどうしてか
- ▶ とともに皆と食したのはどうしてなのか それぞれ勝手に食べないのか
- ▶ 自然と一体化していた暮らしとは どのような状態かイメージできるか
- ▶ 自然にあるモノ獲得したとき それを私的に所有しないというのは
- ▶ いつも助けあってばかり 皆で支えながら生きていた どうしてか
- ▶ 短い人間寿命生活の中で どのようにして働く文化が伝えられたのか
- ▶ 遊びながら 生活の中で労働の中で学ぼうとしたのは どうしてか
- ▶ しだいに文字と言語を獲得していった どのようにして